

令和6年度
授業改善推進プラン

令和6年8月
大田区立羽田中学校

目 次

令和6年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画…………… 1

各教科の授業改善推進プラン

国語科……………	2, 3, 4
社会科……………	5, 6
数学科……………	7, 8, 9
理科……………	10, 11
英語科……………	12, 13, 14
音楽科……………	15, 16
美術科……………	17, 18
保健体育科……………	19, 20
技術・家庭科……………	21

【関係法令等】

- 日本国憲法 ○教育基本法
- 学校教育法 ○学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
- 大田区教育委員会教育目標

【学校の教育目標】

人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の三つの力を生徒に身につけさせるために、全教職員で教育実践に取り組む。

○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

【願い】

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される生徒像

学校経営方針 ◎基礎基本的な学力を身につける

◎祭りを企画する学力をつける

◎いじめ・不登校対策の徹底

『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。

『学力向上のための取組』を推進する。

『地域と共にこどもを育てる教育』を推進する。

『各教科の指導重点』元の文↓
○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施
○各生徒に配布したタブレット教材など

『道徳教育の指導の重点』元の文↓
○ICT機器を用いて、互いの考えを共有・整理し、議論を深める。

各教科の指導の重点

- 「区学習効果測定」、「全国学力・学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実
- 自己調整学習に必要なスキルを指導し、家庭学習の定着と学力向上を図る
- 自分の意見を述べ、他者の意見を共有する対話的学習を推進するため、タブレットなどのICT機器を有効活用する
- 土曜補習(年7回)、放課後学習教室

【本校における確かな学力の捉え方】

本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。

- ①基本的な生活習慣と学習習慣
 - ・規則正しい生活をしていくとする意識
 - ・家庭学習を継続する力
- ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)
 - ・学習用具を揃える力
 - ・話を聞く力
 - ・ノートをとる力
- ③基礎・基本的な学力
 - ・読む力
 - ・読んで理解する力
 - ・話す力
 - ・書く力
 - ・計算する力
- ④知識及び技能を活用する力
 - ・思考力
 - ・判断力
 - ・表現力
 - ・発表力
- ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度
- ⑥情報の収集能力・活用能力
- ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力
- ⑧マナーや規範意識
- ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

道徳教育の指導の重点

- 「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。
- 小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。
- ICT機器を用いて、互いの考えを共有・整理し、それを認め合う場を設ける。
- 道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携して心の教育を推進する。
- 自他の命を大切にする気持ちを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

総合的な学習の指導の重点

- 生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施
- 環境問題や国際問題、地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成
- 図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用

基礎的・基本的な生活習慣・学習習慣

◇ 広義の基礎・基本
学習指導要領に示された目標および内容

◆ 狭義の基礎・基本

- ・読む力
- ・読んで理解する力
- ・話す力
- ・書く力
- ・計算する力
- ・生徒の実態に応じた身につけさせたい力

生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自治的な態度の育成(ノータイムデー・ボランティア清掃の実施)

○hyper-QU→WebQU
○セーフティ教室

特別活動の指導の重点

- 「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張
- 生徒会活動・学級活動の充実による社会形成スキルの育成と自立的な団体の育成
- 部活動への積極的な取り組みによる豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化
- 特別支援学級との交流活動の充実
- 地域や校内ボランティアの充実(地域行事スタッフ・清掃)

進路指導・キャリア教育の指導の重点

- 「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導
- 3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続
- 就労者の講演会やマナー講習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養

【評価の工夫】

◎指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす)

生活指導の重点

- 規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立
- 学校生活調査とWebQUの実施、スクールカウンセラーやサポートルーム、不登校対応教室(とまり木)と連携した教育相談の充実
- 地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底(情報モラル教室・薬物乱用防止教室)
- 支援委員会を中心に、不登校や課題のある生徒への支援・対応を効果的に進める

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう態度の育成 ○学校評価の改善・工夫と、それを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」・「朝学習」・「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実 ○冒険教育の推進 ○サポートルームを活用した、指	○数学(全学年)で少人数習熟度別授業を実施 ○おおたグローバルコミュニケーション(OGC)の推進(ALTの常態化・英語少人数授業等) ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別面談の実施 ○オンデマンド授業やタブレット学習による学習機会の保証と充実 ○学習方略のスキルの指導、家庭学習習慣の定着と学力向上を目指す	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実 ○タブレットを活用した学習と、その有効な活用法の研究の充実 ○各教員の授業力向上のため、授業相互見学週間の充実	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○生徒が自分自身の課題を見出させ、生徒の学習意欲の喚起を図るため、指導と評価の一体化を目指した授業実践 ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標「学習指導・生活指導スタンダード」の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アシスト羽中(学校地域支援本部)」との連携 ○学校と家庭の連携推進事業の活用による問題行動への対応

(様式例)

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・説明的文章・文学的文章などに音読指導を行うことによって漢字についての知識や文法的な知識など基礎的・基本的な知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

(2) 課題

- ・各領域や3観点すべての基本となる考える力や語彙力に課題がある。活字に触れる機会を確保するとともに、日常の言語活動を意識的に捉える習慣をつけながら、理解や思考の深まりにつなげる指導を組み立てる。
- ・授業での学習同様に、基礎学力の定着には家庭学習が重要であることを伝えながら、意欲的に課題に取り組めるように指導する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体として目標値を8.6ポイント下回った。基礎は7.9ポイント下回り、活用の部分では、10.1ポイント下回っている。区や全国の正答率と比較して、全ての領域で下回っている。特に言語分野と書くことの事項に課題が残る。		
第2学年	全体として目標値を7.4ポイント下回った。基礎は6.0ポイント下回っており、活用の部分は9.7ポイント下回っている。区や全国の正答率と比較して、全ての領域で下回っており、とくに書くことに関する事項に課題が残る。	全体として目標値を7.0ポイント下回った。活用に当たる部分が15ポイント以上下回っている。区や全国の正答率と比較してすべての領域で下回っており、情報の扱い方に関する事項の部分に課題が残る。	

第3学年	全体として目標値を2ポイント上回り、基礎は3ポイント近く上回ったが、活用の部分は0.9下回っている。応用力に課題が残る。	全体として目標値を0.1ポイント上回った。区の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全国の正答率と比べて全体的に下回っている。	全体として目標値を4.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると、全体的には下回っている。
------	--	---	---

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を12.8ポイント下回った。漢字の読み書きをはじめとする基礎的な言語事項が目標値を大きく下回っている。基礎的な言語知識の定着及び応用力の定着を図りたい。	目標値を4.4ポイント下回った。特に話すこと・聞くこと、書くことの事項が目標値より大きく下回っており、問題の要点を捉えることに課題が残る。	目標値を8.4ポイント下回った。話すこと・聞くこと及び記述問題などに対して、粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を5.0ポイント下回った。漢字の読み書きや文法事項などの基礎的な言語知識の定着に課題が残る。	目標値を8.8ポイント下回った。特に話すこと・聞くこと、書くことの事項が目標値より大きく下回ってしまった。文章の要点を捉えることに課題が残る。	目標値を19.1ポイント下回った。区や全国の正答率より大きく下回っている。問題に対して粘り強く取り組むことに対する苦手意識が強いと考えられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を5ポイント上回った。漢字の書き取りや文法語句に関する知識が目標値を上回っており、言語的事項の地道な取り組みが成果を上げたと考えられる。	目標値を0.6ポイント下回った。聞くこと話すこと、書くことの力は目標値を下回り、課題が残った。	目標値を2.5ポイント下回っていた。区や全国の正答率より大きく下回っている。問題などに、粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的な小テストの実施や、アプリ教材での繰り返し学習を通して、漢字や文法事項などの基礎的な言語事項の確実な定着を図る。	「話すこと・聞くこと」の事項に関して、小グループでの学び合いや学級全体での意見交換の場を意識的に設け、他者の考えに触れたり、自分の考えを深めたりする学習を増やす。 また、上記の活動や詩・短歌などの作品制作を通して、自分の考えや思いを文章に書き表したり、文章を推敲したりする学習を通して、書く習慣の定着を図る。	教科書の内容に加え、関連する作品や生徒の身近な話題などを授業に取り入れ、関心・意欲の向上を図る。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的な小テストの実施や、アプリ教材での繰り返し学習を通して、漢字や文法事項などの基礎的な言語事項の確実な定着を図る。	授業の始めに課題作文を実施し、自分の考えや思いを文章に書き表すことを定着させていく。また、添削を通して個々の振り返りを行い、書く習慣の定着を図る。 「話すこと・聞くこと」に関して、音読や暗唱テストを通して、リズムを掴んだり、語感を捉えたりできるよう繰り返し実施する。	教科書の内容に加え、関連する作品や生徒の身近な話題などを授業に取り入れ、関心・意欲の向上を図る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字や文法の小テストなどを定期的に実施し、繰り返し復習することで定着を図る。	「話すこと・聞くこと」に関しては、小グループでの学び合いの場を設け、意見交換をし、お互いに学ぶ場を増やす。 また書く力に関して、単元が終わるたびに感想を書いたり意見文を書くなど、書く習慣を身に付けるようにする。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいる。授業に意欲的に取り組めるように、身近な事例を授業の中に取り入れながら、関心・意欲の向上を図る。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生においてはワークを用いた問題演習や單元ごとのテスト等を繰り返し行ってきたことで基礎的・基本的な知識が定着してきている。また、毎時間の新聞読解により、社会的な事象についての関心も高くなっている。2年生については、動画等の視聴により、社会についての興味・関心が高まってきている。

(2) 課題

- ・3年生については、基礎的な内容を習熟しているが、地理的分野と歴史的分野で定着率が低いところがある。また、2年生については、地理的分野・歴史的分野ともに、資料の読み取りについて課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値から12.3ポイント下回っている。基礎的な内容について身につけていない。特に古代から中世の歴史的事象が苦手である。	目標値から11.7ポイント下回っている。基礎的な内容について身につけていない。資料や事象間の関連性についての読み取りも苦手である。	
第2学年	目標値から10.5ポイント下回っている。基礎的な内容が十分に身につけておらず、特に活用の正答率が30%を下回っている。	目標値から3.6ポイント下回っている。基礎的な内容については概ね身につけているが、地理的分野の「日本の姿」が苦手である。	目標値から0.5ポイント上回っている。基礎的な内容については習熟しているが、資料や事象間の関連性についての読み取りが苦手である。
第3学年	目標値から2.1ポイント下回っているが、基礎・基本的内容は身につけている。50%を下回っているのは、「日本の諸地域」と「明治時代」の2單元のみである。	目標値から4.8ポイント上回っており、どの分野もおおむね習得していることがわかるが、「日本の諸地域」の單元のみ、目標値を0.5ポイント下回っている。	目標値から0.5ポイント下回っている。特に世界の諸地域や東アジアにおける歴史上の外交関係が苦手で、目標値を大きく下回っているところがある。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を13.5ポイント下回っている。地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野の知識が定着していないことがわかる。	目標値を12.6ポイント下回っている。特に明治時代から大正時代までの歴史の流れをつかむ問題で、正答率が極端に低かった。	学習態度については、目標値を6.9ポイント下回っており、社会科という教科に苦手意識をもっていることがうかがえる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
遊牧や日本の領域について の正答率が低い。世界の姿の 学習後、学習に対する意欲が 大幅に低下した可能性がある。	世界の主な宗教について、複 数の資料をもとに判断する 問題の正答率が特に低い。資 料をもとに考察し、表現する ことがいまだに苦手である。	目標値よりも 11.1 ポイント も低いので、社会科という教 科に対する関心や興味がい まだに向上していない可能 性がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野・歴史的分野の基 本的な知識を問う問題は概 ね正答できていたが、中部地 方の農業の特色の正答率が やや低くなっている。	幕府の対外政策に影響を与 えた欧米諸国のアジア政策 についての読み取りに対す る問題の正答率が極端に低 くなっている。	目標値を下回る 4%ほど、正答 率となっている。社会科に対 する関心・興味がまだ十分で はないことがわかるので、導 入等の工夫が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時の授業内において適宜、 既習事項の振り返りをしつ つ学習内容の定着を図る。 ICT 機器を活用して、生徒が 知識を具体的にイメージで きる学習活動を授業に組み 込んでいく。	授業内で既習の知識や用語 をどのように活用すれば、社 会的事象を説明することが できるかについて解説し、社 会的事象について自ら考え、 説明できる力を養うように していく。	授業内で既習した内容を活 用することのできる課題を 設定し、その課題に主体的 に取り組ませるための時間 を設定する。（学習形態とし て、グループワークや個別 学習を含む）

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元終了後に毎回、単元テ ストを行い、地理的事象や歴 史的事象についての基礎的・ 基本的な学習内容の定着を 図る。定期考査で定着した 知識をさらに活用するた めの学習活動を適宜実施 する。	授業の中で、様々な資料の 読み取りと説明を適宜おこ なう。さらに地理的事象や 歴史的事象について自分で 課題を見出すことのできる 力を伸ばせるようにするた めの学習活動を設定する。	単元毎に学習ワークへの取 組みを徹底させ、基礎的・ 基本的な学習内容の定着を 図る。社会科の興味・関心 を喚起できるように新聞記 事の読解を毎時おこない、 世の中のできごとを学ぶ。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な既習事項 を授業内において反復して 問うことで学習内容の定着 を図る。単元テストで、さ らに知識の定着を確認する。 ICT 機器を活用して社会的 事象についての資料の読み 取りを確実に習得する。	授業中に単元内容を様々な 資料を活用して、まとめる 時間を多く設定する。また、 特に政治・経済などの単元 内容について、様々な資料 を活用して、主体的に説明 できる力を伸ばす取り組み を増やしていく。	社会科の興味・関心を喚起 できるように新聞記事の読 解を毎時おこない、世の中 のできごとを学ぶ。さらに、 発展的学習として、社会的 事象について自分との関係 を主体的に考える学習活動 を設定する。

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習している内容と、異なる領域や他教科とのつながりを生徒に認識させることにより、生徒が自ら学ぼうとする意欲を引き出す授業展開を図ることができている
- ・現在学習している内容が、既習事項からどのようにして導き出されるものなのかを生徒に考えさせることにより、系統的な学習に繋げることができている
- ・タブレットを用いることにより、問題解決するためのイメージを湧かせることができ、理解の定着に繋がっている。またドリル学習も行えることで、授業だけでなく家庭でも学習する機会を得ることができている

(2) 課題

- ・学習内容の定着に課題がある。例えば、図形領域を学習していると、数と式領域の内容が抜けてしまう節がある。定期的に、過去の学習内容を振り返る機会をとり、学習内容の定着を図る
- ・公式や定理を暗記しようとする傾向がある。定義をもとにし、そこからどのように定理が導き出されているのか、その過程の理解に努めさせる必要がある。適宜生徒の考えを引き出し、それを共有・説明する場を設け、理解の定着を図る
- ・表や図、グラフの読み取りに課題がある。しかし一問一答形式であれば理解することが出来るので、読み取るポイントを理解させ課題解決を図る

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体として、昨年度より上昇した。特に、単位量あたりの大きさが目標値より10.5ポイント上回る。しかし、小数・分数の計算は目標値より大きく下回った。		
第2学年	全体として、昨年度より6.9ポイント落とす結果となった。目標値と同程度の生徒は3ポイント上昇したが、目標値を上回る生徒は10ポイント減少している。	全体的に、昨年度よりポイントを落としている。特に小数・分数の計算、図形領域の下降率が高い。また文やグラフを読み取ること、それを式化することにも課題が見られる。	

第3学年	昨年度より、0.3ポイント上昇した。特に、関数領域では比較的高い成果である。一方、図形・データの活用領域には課題が見られる。	全体として昨年度より、0.9ポイントほど上昇した。特に、図形、統計、では昨年度より正答率を上げたものが多い。一方計算問題での課題が見られる。	全体として、昨年度より3.6ポイント上昇した。小数・分数の計算、整数の性質以外は目標値と変わらないか、上回っている。
------	--	--	--

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体として目標値を下回ったものが多い。目標値を上回ったものは選択形式のため違いは認識できているが、それを活用することに課題がある。	全体で目標値を下回っている。特に分数・小数の計算や比の考えを利用する問題が顕著である。	全体で目標値を下回っている。文章を読み取ったり立体を分ける考えが弱いと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 15.0 ポイント下回る結果であった。特に課題となっている領域は、1次方程式を解くこと、比例式を解くこと、累積度数や分布の範囲の理解であった。	目標値より 20.7 ポイント下回る結果であった。すべての領域において▼となっているが、中でも特に課題となっている領域は、1次方程式の立式であった。	目標値より 20.2 ポイント下回る結果であった。数量の間の関係を不等号に表すことは目標値に近かったが、比例のグラフや垂線の作図等が課題であった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体として目標値に近い成果である。数と式・関数領域で高い成果を収めているが、図形・データの活用領域に於いて課題が見られる。	全体として目標値に近い成果である。特に図形と関数を融合する問題では良い成果を挙げている。しかし、考え方や理由を説明する問題に関して課題が見られる。	全体として目標値を下回る成果となっている。既習事項を活用したり、そこから新たに分かることを見出すことに関し課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な計算問題や図形問題を定期的に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。特に分数・小数の計算には重きをおく。	文章問題について立式をすることに苦手意識を感じていることが予想されるため、授業内で生徒どうしの共有場面を設け、深い学びに繋げるとともに定着を図る。	1つの問に対し、複数の解法があるため、生徒同士の対話場面を設け、主体的・対話的な学びの機会を設けるとともに、深く学ばせて生徒の知識定着に繋げる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の授業で新たに学んでいく内容に加えて、既習事項の基礎基本から学び直し、苦手箇所を自ら改善していくような姿勢を養う。そのために、授業者の説明の仕方を工夫するとともに、演習する際に取り扱う問題を精選して授業に臨む。	正答誤答で問わず、なぜそのように考えたのかを説明させることを徹底させる。自分の考えを整理して表現したり、他人の考え方を吟味するなど、対話的な学習を必要に応じ進める。また ICT 機器も適宜活用し、表現の幅も広げていく。	問題を解決する糸口を見出させる指導を徹底する。問題で分かっていること、そこから更に分かることは何か、既習事項がどのように使えそうかを常に考えさせる。そして、各生徒に既習事項を使えば問題解決に繋がるという意識を培っていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算演習を継続して行っているため、計算に関しては一定の成果を収めている。計算に併せ、データの活用領域の短答式課題を取り入れ、確率の知識・技能の定着を図る。	論述課題に対し、論理的に表現できなかつたり、無回答となる傾向がある。既習事項と繋ぎ合わせ、論理的に物事を考え表現できるよう、適切に発問をして、深い学びに繋げる授業展開を図る。	1つの問に対し、複数の解法を吟味させたり、そこから新たに分かることを考えさせる授業展開を図る。特に現実事象の問題を数学化して考えさせ、数学のよさを体感できる授業展開を図る。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生は、「基礎」より「活用」の正答率が高かった。3観点の正答率はほぼ等しく、領域では、「生命・地球」領域の正答率が高かった。
- ・2年生は、「活用」より「基礎」の正答率が高かった。「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が高く、「粒子・地球」領域の正答率が高かった。
- ・3年生は、校内平均正答率が区平均よりも高かった。「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が高く、「エネルギー・粒子」領域は全国平均よりも高かった。

(2) 課題

- ・1年生は、「主体的に学習に取り組む態度」、解答形式は「記述」の正答率が低かった。
- ・2年生は、観点では「知識・技能」、解答形式は「記述」の正答率が低かった。
- ・3年生は、観点では「知識・技能」、「活用」より「基礎」の正答率が低かった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	3観点ともに目標値を大きく下回った。その中でも、「思考・判断・表現」がやや高かった。		
第2学年	3観点ともに目標値を大きく下回った。特に「知識・技能」が他の2観点よりも大きく下回った。	3観点ともに目標値を大きく下回った。特に「思考・判断・表現」が低かった。	
第3学年	3観点ともに目標値を下回ったが、「主体的に取り組む態度」は、目標値まであとわずかだった。	3観点ともに目標値を下回った。比較的「思考・判断・表現」が低く、「知識・技能」が高かった。	「思考・判断・表現」だけが、目標値を越えた。「主体的に取り組む態度」が低かった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「月と太陽」に関する問題の正答率が高かった。「水溶液の性質」に関する問題の正答率が低かった。	脈拍と拍動や、葉に運ばれる水の正答率が良かった。発電と走行距離、モーターの活用の正答率が低かった。	モビールを釣り合わせるために必要な操作の正答率が高かった。塩酸と炭酸水の見分け方の正答率は低かった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
スケッチや濾過の仕方に関する問題の正答率が高く、質量パーセント濃度の計算の正答率が低かった。	日本付近の火山の分布に関する問題の正答率が高く、地震のS波や音の速さを求める計算の正答率が低かった。	メタンの性質と警報器の設置位置、宇宙では音が伝わらない理由に関する問題の正答率が低かった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均が区平均より高かったが、全国平均より低かった。化学式や圧力計算に関する問題の正答率が低かった。	校内平均が区や全国平均より高かった。葉の裏から出ていく水の量に関する問題の正答率が低かった。	校内平均が区や全国平均より高かった。粉末インクと静電気の関係などの正答率が高かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。	事象を調べる実験方法を考えさせたり、実験から事象を説明したり、考察したりする場面を増やす。	実験や観察をしてみたり、出来ない部分は映像で確かめたりして、主体的に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて知識を定着させる。計算問題では、立式を重視し、反復練習する。	授業の中で、現象や用語の自分で説明できるまで理解させ、記述問題に対応する力をつける。	雲の出来方や静電気の現象など、日常生活に見られる現象と関連づけ、主体的に取り組む態度を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験の際には、くり返し器具の使い方を説明し、グラフにまとめ、実験の振り返りまで行い、定着を図る。	酸・アルカリの濃度と体積の関係の計算問題や、電池の仕組みを理論的に説明できるように指導する。	どのように応用されているか知り、工夫ができるか考えることで、主体的に取り組む意欲を高める。

(様式例)

令和6年度英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 語形・語法に関する基礎知識を高めるため、授業内でドリル学習等の時間を増やしたり、生徒の実態に合った家庭学習の方法を提案した。
- ・ 英作文を行うことへの苦手意識が高いため、授業で書く時間を確保した。

(2) 課題

- ・ 英作文への苦手意識があることは今年度も課題であり、授業内でライティングタスクの時間を確保する必要がある。
- ・ OGC スクールとして ALT を活用した授業づくりをする。どの学年もリスニング力に関しては比較的高い数値がでているが、スピーキング力やライティング力には課題があるため、ALT を効果的に使いながら自己表現力を高めるような機会を増やす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体的にリスニングの能力はおおむね良好であるが、書くことに関する問題に課題がある。特に英作文は目標値に大幅にたどり着いていない。		
第2学年	全体的に目標値を下回る数値になっている。リスニングの能力は目標値に近い数値と言えるが、ライティングの能力が低く、目標値に大幅にたどり着いていない。	全体的に目標値に近い正答率が出ているが、昨年度までの正答率や全国正答率と比較すると、どの観点に関しても低い数値が出ており、正答率が低い問題の分野も分散している。 (第1学年時)	
第3学年	長文の読み取り、語形・語法の問題においては目標値に近い正答率がでている。また、リスニングに関しては目標値を上回る正答率がでている。一方で、全体として目標値を下回っており、特に英作文の問題に大きな課題がある。	全体的に、目標値を上回る、または目標値に近い正答率がでている。リスニングの正答率は比較的高いが、基本的な語形・語法の問題においては目標値を下回っている。(第2学年時)	校内正答率は目標値を上回る達成率ではあるが、大田区の平均正答率と比較すると、すべての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べて下回っている。(第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 2.0 ポイント高く、アルファベットの読み・書きや単語の意味理解はよくできている。	目標値より 3.7 ポイント低く、英語の思考力・表現力が乏しい傾向にある。特に英作文や英文の整序問題に課題がある。	目標値より 1.9 ポイント低い値になっている。特に英作文での無回答の割合が高く、難しい問題に取り組むことに困難を感じている生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 9.6 ポイント低く、1年次に学習した基礎的な分野の定着ができていない。	目標値より 9.1 ポイント低く、特に英作文など書くことに関する問題に対して課題がある。	目標値より 16.1 ポイント低い数値になっている。英作文に関しては無回答の生徒も多く、全体的に前向きに取り組む姿勢が低い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 3.6 ポイント低く、英文の読み取りにおいて課題がある。一方で、リスニング問題、特に内容理解においては正答率が高い。	場面に応じて書く英作文問題や3文以上の英作文問題の正答率が全国平均より 4.2 ポイント低い結果となり書くことに関する課題がある。	他の観点に比べて目標値との開きが 13.1 ポイントと一番大きい。さらに、記述問題における「無回答」の割合が区平均値と比べて高いことが課題である。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き既習単語の復習と、進出単語の定着を図るべく、授業内でデジタル教材を活用した単語練習を毎回行う。	英文の整序問題は繰り返し学習し、語順を定着させることが必要なので、定期考査などで出題したり、日々の課題に取り入れたりして、年間を通じて問題に取り組ませていく。	どんな問題でも間違えることを恐れずに安心して解答できる雰囲気を普段の授業から醸成し、テストにおいても粘り強く取り組めるよう既習単語を多く用いた問題を作成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT を活用し、個別最適化された問題を解く機会を増やしていく。授業内でも復習の時間を増やし、基礎・基本の定着を徹底する。	普段の授業の中で英作文の回数を増やしていく。まずは文章を読み、作文の構成を理解し、その上で自己表現できるような機会を増やす。	ICT を活用し、まずは英語に対する苦手意識をなくしていく。そのうえで普段から自己表現できるような機会を設定し、テストや発表の際にも挑戦できるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT を活用し、個々のレベルに合わせた課題に取り組める機会を増やしていく。既習事項の復習や基礎基本を徹底できる授業を行っていく。	英語の文章の型（主張・理由・具体例など）を意識させ読み取る力を向上させる。また、自由英作文の機会を増やし、書くこと・表現することへの抵抗感を減らしていく。	主体的に学ぶ力を付けるために、家庭での学習方法を提案したり、英語の歌や世界の文化などを紹介し、英語に対する興味を高めていく。

(様式例)

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱活動では、3年で「花」を取り入れた。音楽を形づくっている要素を知覚することで、感受した曲の雰囲気との関わりを、ヒントカードを使いながら考えることができた。
- ・器楽活動ではアドバイスカードを取り入れ、ギターやリコーダーを助言し合いながら取り組むことができた。

(2) 課題

- ・楽典については、音符の名前などを期末テストに何度も出題することで、定着を促してきたが、まだ不十分であるように感じる。普段の授業でもタブレットでのエクササイズを積極的に取り入れて、引き続き知識を定着させていく。
- ・音楽表現を工夫しようとすることに課題を感じる。さまざまなイメージを持って音楽を表現できるように、資料を多数提示することでより具体的なイメージを感じ取れるようにしたい。

2 観点別の課題

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女間で理解力にかなりの差がある。楽典の知識もかなりばらつきがあり、音名を読めない生徒も多い。指を動かす不器用さも持ち合わせている生徒が多いので、器楽の練習も集中して取り組むことが難しい。	短絡的な思考になってしまい、表現を深めるところまでいかない。しかし模範演奏と自身の演奏の違いには気づくことができる。	授業中は注意散漫になることが多いが、発問に対して活発に発言することができる。器楽・歌唱活動の練習の集中力がまだ育っていない。振り返りカードは一生懸命に書くことができる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽典の知識が定着せず、かなり厳しい。しかし一方で歌唱・器楽の技能面では、物怖じせずに表現することができるのでとても良い。	基礎的な知識が足りていないので、表現を工夫するところまでいけないことが多い。しかし、一方で模範演奏を模倣することは得意な生徒も多い。	ばらつきがあるが、授業中は注意散漫になることが多い。器楽・歌唱活動の練習の集中力がまだ育っていない。自身が興味をもったことであれば積極的に取り組む。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理解力に差がある。また、歌唱では、大半の女子生徒は音感が良い。一方で、男声の音程が不安定である。音楽に関する基礎的な知識・技能については定着してきたように感じる。	音楽に関する基礎的な知識・技能がついてきたので、表現の工夫についても2年次より改善が見られる。しかし、自ら表現を工夫しようという思考力は乏しいように感じる。	授業は落ち着いて取り組むことができている。クラスによっては周りの目を気にして発言を怖がってしまう生徒も増えてきた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の導入の際にMUSICCAのエクササイズをタブレットで行わせ、知識の定着を促す。器楽の技能ではアドバイス活動を取り入れ技能の向上を目指す。	模範演奏との違いに気づくことができるので、ICTを活用しながら自身の演奏と模範演奏の違いに気づかせ表現を深める活動をする。	発問に対しては挙手で答えるようにするなど、まずは授業規律を整え、落ち着いた授業の確立を目指す。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物怖じせずに表現ができることを活かして、技能の向上を図っていききたい。より実技を中心とした指導を取り入れていき、そこで枠組みを作ってから知識を涵養していく。	模倣することが得意なことを活かして、表現力の向上を図っていききたい。また、その表現に至った根拠も考えさせることで自ら表現する力を付けていききたい。	発問に対しては挙手で答えるようにするなど、まずは授業規律を整え、落ち着いた授業の確立を目指す。振り返りカードを簡単なものにして、1回1回の授業でしっかり書く習慣を身につける。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男子生徒が歌に苦手意識をもたないよう、丁寧に細かく指導していく。 教え合う活動を取り入れ、理解の差をうめていく。	表現についてパートごとに考える機会を増やし、他者の意見を取り入れながら自身の表現を工夫できるようにする。鑑賞では鑑賞ヒントカードを活用させながら語彙を増やしていききたい。	ICTを活用しながら一人一人の意見が全体に共有されやすくする。また、授業の流れを最初に説明することで学習の見通しをもたせる。

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・発想や構想については、作例や資料をもとに着想し表現できるようになった。
- ・創作活動に意欲的で積極的な生徒が多い。
- ・ICT 機器を活用して、説明、指導の効率化を図ることができた。

(2) 課題

- ・感染症もおさまり、徐々に芸術と触れ合う機会も増えたので、より一層芸術に親しんでもらいたい。
- ・創造力を養い、独自の表現で作品を生み出す力をつける。

2 観点別の課題

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識、理解力にばらつきがあるので、一人ひとりに丁寧な指導を心がける。	絵文字デザインの学習を通して構想を色や形で表現することを学ぶ。	なかなか構想がわからない生徒には、構想の練り方の指導する。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識や、理解力や授業に対する集中力にばらつきがあるので、丁寧な指導を心がける。	表現力、思考力、判断力が、少しずつ身についてきている。	技能が身についてきているので、より積極的に授業に取り組んでいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識、技能の習得が全体的に向上しているので、より深い学びに向かう状態になった。	自分の考えを表現するための思考力、判断力が身に付き。生徒自ら意見を交換しあい、課題に取り組んでいる。	技能や表現力が向上し、より積極的に授業に取りくめている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートやICT機器を活用して分からないところを説明して、一人ひとりに理解させる。	発送シートを取り入れて、発想のきっかけを作り、美術に対する見方や考え方を学ぶ。	将来を担う社会の一員として地域のポスター制作にあたる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作の技法、材料について学習させる。	身近な自然の造形美について学ぶ。	自分なりの表現で、完成まで計画的に取り組ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資料や ICT 機器を活用して、日本や世界の伝統文化、美術作品について、より深く学ぶ。	制作する上で技法や材料、またその時々で制作に合った道具を選んだり自作することを学ぶ。	美術の文化や、価値について、より深く学習するとともに歴史や風土との関係性についても理解を深める。

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・男女共修による体力差、個々のレベル幅に応じた指導を行い、個々の主体性を高めた。
- ・グループ活動を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めながら、互いに協力し活動することができた。

(2) 課題

- ・屋外で活動する種目にも、ICTでの活動を積極的に取り入れ、主体性や思考力を育めるようにする。
- ・新体力テストの結果から、スピードや瞬発力が全国平均より低いため、これらを高めるための工夫が必要である。

2 観点別の課題

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能差は二極化しており、技能の低い生徒の割合がやや多い。身体の発達の個人差もあるが、全体的に運動慣れしている生徒が少ないと感じる。	全体的に女子は考え、適切に判断することができていると感じる。男子は少し考える力が劣り、文章や言葉で表現することに苦手さが見られるが、一生懸命である。	運動を主体的に取り組もうとする意欲はある。しかし、集中して指示を聞けていなかったり、取り組めていなかったりする状況が多く見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力・技能の差が大きい。知識に関しては、全体的に低く学習意欲も低い。	授業の振り返りプリントが徐々に板に付き、自己の課題を考えることができてきている生徒と、指示を聞けず適切に判断・思考できない生徒と差が広がっている。	体を動かすことが好きな生徒が多いが、指示が集中して聞けないことやグループ活動できず自己中心的に動いてしまう生徒がいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年の1学期と比べ、男女共に技能を高めようと積極的に取り組む人が増えたり、保健授業でも知識を高めようと努力する人が増えたりとする姿勢が高まった。しかし、全体の達成度62ポイントから62ポイントのままであった。	昨年の1学期と比べ、男女共に考えて行動する力が高まった。仲間へアドバイスをする人が増えたり、仲間の良い所を見つけ、伝える人が増えたりと表現機会が多く見られた。全体の達成度は56ポイントから70ポイントと14ポイント上がった。	昨年の1学期と比べ、男女共に主体性が高まり、自ら運動に取り組む姿勢や仲間と協力して取り組む姿勢が増えた。全体の達成度は62ポイントから71ポイントと9ポイント上がった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の定着率を高めるために、技能プリントや授業の復習問題を作成する。 技能を高めるために、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意する。全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるように準備する。	保健では毎回必ずグループワークを取り入れ、意見を交わす機会を設ける。 実技ではICT機器や振り返りシートを活用して、運動中には表現をしにくい生徒にも思考・判断をする機会をより多く設定する。	授業のおもしろさを高めるために自信の授業力を高める。また、主体的に生徒が取り組める機会を多く設定する。生徒に合った授業づくりのために、技能別のドリルワークを設定し生徒が選択できるようにする。 生徒のよい行動は褒め、自己肯定感を高めていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力や・技能レベルごとに課題を与え、個々に課題を改善できるようにする。 何度も同じ事を反復的に学習し定着させる。	個々の課題を見分け、改善への糸口をいくつか提示することで、自己の課題を自ら考え改善するための方法を考えやすくする。また、ICTを活用し、自分の動きを見ることで考えを深める。	ICTを活用し、グループでの話し合い活動を円滑に行えるようにする。また、技能だけではなく多くの視点から認められる周りから認められる場面を作り、意欲を高めていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の定着率を高めるために、技能プリントや授業の復習問題を作成する。 技能を高めるために、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意する。全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるように準備する。	保健では毎回必ずグループワークを取り入れ、意見を交わす機会を設ける。 実技ではICT機器や振り返りシートを活用して、運動中には表現をしにくい生徒にも思考・判断をする機会をより多く設定する。	授業のおもしろさを高めるために自信の授業力を高める。また、主体的に生徒が取り組める機会を多く設定する。生徒に合った授業づくりのために、技能別のドリルワークを設定し生徒が選択できるようにする。 生徒のよい行動は褒め、自己肯定感を高めていく。

(様式例)

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎・基本の習得に重点を置いた題材を選んぶことにより、製作の意欲が高まった。
- ・課題発見、課題解決をする力について、実生活での経験、ふり返り活動を通して課題解決を図ろうとする生徒が増えてきた。

(2) 課題

- ・学習内容の定着度に差があることから、既習の内容を含めた基礎・基本の学習内容の定着を図る必要がある。
- ・定着が不十分な生徒には個別指導が必要である。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活に必要な技能を定着させるために、実技の授業の時間を多く確保できるよう工夫していく。 実物を示したり、実際に触れたり、体験する活動を増やしたりして技能を定着させる。	生活について、課題を自ら考え、解決していく方法を考えていく時間をより多く設ける。また、考えた内容をペアやグループで共有し、深い学びが得られるような工夫を行う。	作品の製作において、各工程に必要な材料や工具などを自ら考える力を養う。それらを通して実生活においても、見通しをもてるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実物を示したり、実際に触れたり、体験する活動を増やして技能を定着させる。 電気についての基本知識や利便性に触れると共に、感電・漏電など、身の安全にかかわる内容を充実させる。	作品製作の計画を立て、毎時間見直すことで、見通しをもつ力をつけるとともに、計画を修正してよりよいものを作るための工夫をする。	ICTを有効的に活用し、わかりやすい授業を行う。 ねらいを明確化し生徒が見通しを持てるような授業を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族や家庭、地域、社会とのかかわりを考え、積極的に解決しようとする力を育てる。 家族や家庭、地域、社会とのかかわりを考え、積極的に解決しようとする力を育てる。	学習内容を踏まえた作品のデザイン・設計を行い、目的に応じた作品製作を行う。 。	ICTを有効的に活用し、わかりやすい授業を行う。 毎時間の授業の目標を掲示し、授業の目標を把握できるようにする。